

第18回おのみち100km挑戦隊

感恩報謝の旅

“ 学生リーダー
感想文集 ”



目

次

【室長兼担当推進チーフ】

☆原田 武治(たいぞう) 1
 石川 啓生(ひろき) 2
 田中 志歩(こめりん) 3
 金子 祥太郎(シヨーン) 4

【運営支援担当】

☆山田 菜央(もっち) 5
 ★宮原 夢佳(みー) 6
 田中 伶奈(れもん) 7
 川地 由桜(ゆきじ) 8
 時友 知花(とつきー) 9

【活力向上担当】

☆桔梗 晃一(こーち) 10
 小堂 拓海(オドー) 11
 瀬々 龍(セセ) 12
 前田 拓海(たくみ) 13
 藤原 優明(ゆーちゃん) 14

【参加小学生担当】

☆西川 峻(にっしー) 15
 ★坂井 昂太(コタロー) 16
 掛川 泰輝(タツキー) 17
 小菌 邦生(ほうせい) 18
 奥野 愛絵(まな) 19

【ボラ研担当】

石田 修次郎(じろー) 20
 岡崎 綾乃(ぎつきー) 21
 延岡 明日美(あすみ) 22

【健康管理担当】

☆北原 志織(そるぼん) 23
 平田 貴輝(タカ) 24
 荒殿 拓人(たくちゃん) 25
 宮脇 歩花(あゆ) 26
 松尾 広大(まっちょ) 27

【安全管理担当】

☆馬場 和輝(マツシュ) 28
 蔣 暁珂(シヨート) 29
 三宅 仁(ドビー) 30
 荒木 彰英(アツキー) 31

【テーマソング&文集担当】

☆宇津野 未来(うつつん) 32
 井上 奨太(おさかなさん) 33
 長谷川 七穂(はせ) 34
 金崎 隼也(しゅんぴー) 35
 安田 まり乃(まりこん) 36

【習育・競育担当】

☆野田 雅(みやっち) 37
 大橋 功資(ラブラブ) 38
 平川 千夏(ツナ) 39
 津田和 純平(ロブ) 40

☆ . . . 係リーダー(担当チーフ)

★ . . . 係サブリーダー(担当サブチーフ)

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(室長兼 担当推進チーフ 係り) ニックネーム「たいぞう」 名前「原田 武治」

私は、第15回よりこの活動に参加しており、今年で4年目の100km徒歩の旅になる予定であった。しかし、新型コロナウイルスの影響で本番は中止となりました。中止発表を聞いた際、私の頭の中が真、白になったことを今でも覚えている。チームの最高学年、トップとして今年1年やりきろうと決めていたが故にショックは大きかった。中止発表は主催者であるKAKIさんの口から直接聞きたのだが、その時のKAKIさんの表情の中には残念の他に新たな決意もあったように思う。例年と同じようにはいかなければ、自分にできることをやろう。」と思えたのもそれがきっかけかもしれない。そうやって18回だけの「感恩報謝の旅」が始まった。これを書いている今も旅の準備をしているが、ここまでを振り返ってみても、たくさんのご学ぶことができたように思う。特に2つのことを学ぶことができたと感じる。以下、そのことを述べる。まず、私たちはこれまで数々の観えない力に支えられてきたことを実感できた点である。活動をしていく中で必要となる施設やお金、その他様々な資源のサポートをして下さる地域の方々や企業の方々、これまで100km徒歩の旅に勇気を持って参加してくれた子どもたち、活動のタスクをここまで繁いで下さった先輩方、KAKIさん、そんな沢山の力があって今があることを実感できたのは私にとって大きな収穫である。もう一つは、チーム18期生としての時間、「今ここ」を大切にすることである。今のチームは一人ひとりかとても良い個性、素晴らしい力を持っている。本番が中止になったからといって後ろ向きにならず、常に前を向いて精一杯頑張っていくことが大事であるし、私自身率先してそういうチームづくりをしていきたい。私は18期生はまだまだ出来る、もてやれると感じる。みなが精一杯挑戦するも、と楽しむことが、おの100の明るい未来、19回以降へのタスキとなっていくはずである。過去に感謝し、未来への種まきができるよう、残り3ヶ月余り、そしてそれ以降も皆で高め合っていく。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(魅力発信室長 係り) ニックネーム「ひろき」 名前「石川啓生」
本研担当

4年目になって覚悟を持って迎えた年だった。最高学年と何ができるのか、集大成として気持ちが高まった中で中止の発表を聞かされた。「なんで今年なんや」「小学生・ボラ研・学生はどうなるん」

当時は、受け入れることができず、怒りと不安と悔しさで想いが溢れ、自分は大きな目標を失った。

だが、そこで自分が折れずに続けてこれたのは、18期生の仲間が存在だった。現実を受け止め、自分達ができることを考え、おの100の学生として使命感を持って行動しようとしていました。その仲間の姿から、本番だけが全てではなく、更にはおの100が無くなった訳ではないからこそ、来年もこれからもこの事業を続けることができるように今自分達ができることをすることが自分の使命であることに気づいた。

それが、今の自分自身を支えている新たな目標になっている。私は、3年間 おの100の本番を通して成長させてもらい、大切なものを見つけてさせてもらった。あの5日間とは特別な時間であり、私の財産である。しかし、あの時間、あの時が今では当たり前ではなく多くの人の支えや、観えない力が合わさって成り立っていたことに、今年の本番中止という大きな試練を受けてから、実感を通して改めて気づかせてもらった。だからここ、おの100を継続守り続けていくために、タスキを今ある想いと合わせて継承していかなければならぬ。

私は、おの100に多くの感謝をしなければならぬ。教員になりたいという夢を持たせてもらったのも、おの100の体験からであり、子どもたちのために行動できる人でありたいと、自分の軸を見つけたのもおの100の体験からだ。本番中止という試練は一生忘れない、だが社会人になっても、十年間の学びを活かして、おの100に恩返しできる存在でありたい。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

（リスクヘッジ室 係り） ニックネーム「こめりん」 名前「田中 志歩」
室長

もう学生リーダーとしてゴールテープをきることができないのか。中止を聞いて少しぼんやりした後、最初に感じたことである。しばらくして、家に帰って、ふつふつと想いが込み上げてきた。悔しい、この夏に会える子どもたちのために、協賛活動も学生スタッフの募集もいつも以上の勇気を出して頑張ってきたのに。今年の旅で大きく成長するのだろうか。と期待していた人も多かったのに。18回のこのメンバーで活動できるのは今年しかないのに。そして最後に残ったのは本番がないからといって半端な回にしたくはない。今年にしかできない形で大きな感動をつくりたいという想いだった。いかにも負けず嫌いの私らしいと思った。

こうして私のスタートは違ったものの、次の課題が現れた。私は何のために頑張ればいいのか。何を目指して頑張ろうかと周りのメンバーに声をかければいいのか。空白で、分からなかった。それでも次の夏に来てくれる子どもたちに今まで以上の感動をプロデュースしたいという想いは強くあった。本番の代わりに今までの感恩、報謝を実践しようと思われたのはその時だ。前例がないからこそ、私たち次第でどうにでもなる旅だ。せきウにすることも今まで以上の感動を生み出すこともできる。最高学年として、この旅を主体的に創る「冒険」として関わりたいと思いい、リスクヘッジ室の室長を志願した。本番で健康と安全のためにしてきたことを学生リーダーに伝える、この係りは作業自体は地味だけれど確かに来年以降の開催の土台をつくる。誇りを持って、やりきったと言える活動にしようと思つた。

今年の活動から、二つのことを学んだ。自分の力ではどうにもならない「当たり前」があること。そして自分でできる精一杯をすることしかできない人の気持ちだ。先を見つめて目的のためにくじけない力を私たちは授かることができた。これから子どもへの教育に携わる職業に就くうえでたくやんの子どもたちにも会うだろう。置かれた場所で懸命に努力する彼らを支え、私自身も日々精一杯頑張ること、彼らの強さの源になる、そんな人間として、これから生きていきたい。

『第100回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

【至長兼担当編集係り】 ニックネーム「レインボー」 【名前】金子 洋太郎

「まあ、そうだよな。」

本番中止の連絡は、想定内の範囲内だった。実際私は、本番がないからこそ自分に何ができるのかわからず静に考えていた。本番を頑張りたいと参加してくれた学生、自分も尊敬してくれている後輩、ここに来てマスクを繋いでくれた沢山の人のために何ができるか。そう考えるのは自分に対して、成長すら感じていた。新潟で参加した心も含まれ、私は今年でも度目の参加であったが、思えばこの自分のためにこの事業に関わってきた。そして沢山の人が、影響を受け、少しずつ自分の中で「信念」の芽が生まれる形になってきた。その結果として今年も、自分の意志でやるはじまり、誰かのためにやるということの意味では、やはり本質的に以前とは違ってきたと思う。おの心が大切にしている考え方の一つに「恩送り」というものがある。誰かから受けた恩をその人に返すのではなく、別の人に返すことを意味する。私は、今に至るまで沢山の恩を受けてきた。それらの恩を返すには、またまた力不足ではあるが、そんな自分にもできることとはあると思っている。それが恩送りなのではないかと思う。今の私にできることは、後輩の成長の一助となることであり、来年のおの心開催のために全力を尽くすことである。いたたいた方の恩を送るのに、今の自分に足りない部分は沢山あるが、それらは相手で埋める。そして、私の想いには、きっと信頼できる後輩たちが受け継いでくれて、想いも増幅させ、結果的におの心に響いてくれていることと信じている。

本番中止の連絡は、時が経つにつれ、辛く現実としてのしかかってくる部分はあったが、それでも自分には、尊敬できる沢山の先輩たち、信頼できる同期の仲間として、来年以降を託したいと思える後輩たちがいる。これは決して当たり前なんかではない。もし今後この事業が必ずやとある社会で、続いているための一助になれたのであれば、私の大学生活最後の一年間は、誇れるものであったと信じている。後してやまなひの事業と、これに関わる全ての人に感謝の言葉を表して、最後に大切な言葉を贈る。『訓練に感謝を』

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(運営支援係り) ニックネーム「もっち」 名前「山田菜央」

私は3月の研修の中で本番中止のことを知りました。18期の大好きな仲間や子どもたちとまた100km歩きたい今年はこんな係でこんなことをやってみたい、そんな思いがもう叶わないこととしてそれが誰のせいでもないことがとてもやるせなくて悔しさがあふれたことを覚えています。でも目の前のことを淡々と進めていくうち、できなくなったことも多ければ、今だからできることもある、と少しずつ前を向くことができたし、今まで見えなかったものを実感する機会もたくさんいただけました。

例えばZoomでOB・OGの方やKAKIさんのお話を聞き、今まで文字や音でしか認識できていなかった「17年祭がられてきたタスキや「先輩方の想い」という言葉を、実際の人物とその人のバヤ魂として感じる」ことができました。また、運営支援係として今まで支えて下さった外部の企業さんについて調べて知ったその数々の多さは本当に驚きでした。

これらのことを通して、今年も来年も夏になれば100kmが開催されることは当たり前で、知らないうちになぜかできあがっている土口に乗っかることさえできれば、本番に参加して成長でき、思い出をつくることでできるという気持ちや自分の中にかくれていたことにはじめて気がつきました。でも今なら、この事業ができてきているのは沢山の方が観えない部分で一生懸命動いて下さっているからで、ただ活動に参加するという意識ではなく私たちが作るんだという本気をぶつけるからこそ本当の楽しさが味わえるんだということが分かります。

これからもたくさん困難や予想外のことや待っているとありますが、時には止まったり歩いたりしながらでも19回の開催と大成功に向けて仲間とともに進んでいきたいと思えます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

【運営支援担当係り】 ニックネーム「H」 【名前】宮原真佳

第18回おのみち100km徒歩の旅が中止と知った時、正直私はそこまで落ち込むことはなかった。なぜなら、徒歩の旅ははじめて、かつ他に子ども達や地域の方々とまた何か一緒に創り上げられることがあるだろうと思ったからです。たしかに徒歩の旅だからこの学び体験がどきどきはすごく悔しい、この18期のメンバーと本番を経験してはたかたといふ想いもあります。だけど、今までのことを私たちが一生懸命に取り組んできた、これからのの100にも継が、こいと思えます。私は、運営支援担当係りに任命して頂きました。

この感謝報謝の旅の罪である係りに任命して頂き、うれしかったのと同時に、これからこの100に良いことも悪いことも影響者を与へることができようという責任の大きさに不安という気持ちもあります。この係りで活動していく中で、これまでのおの100を支えて下さった方々を知る機会を頂いています。本当にたくさんの方々からの支えを頂いていることを知りました。長年、ご支援を下さっている方も、今現在は開わりが直接あるわけではない方もいらっしゃいます。でも、その方々の支えがあれば、おの100はここまで継続できなければならなかったかもしれません。私達と直接は関わることはなかったけれど、今まで頂いてきた支え、そしてその裏話などを伺ったことで、おの100についてもっと知ることができました。私たちがおのみち100km徒歩の旅を実施することができているのは当たり前ではない、これは昨年もその思いついて活動をしていました。

しかし、観えない支えを改めて知り、有り難さがより明確になった。今年も、その想いの重さが昨年とは全く違います。この旅を通して、地域の方々はもちろん、この旅をさせて下さるトクトイさんや、応援して下さる運営スタッフの皆様のおかげで有り難さをより深く知ることができています。これからのおの100も、地域の方々に受け継がれ、応援して頂けるように来年もイベントを繋ぐことが私たちに運営支援担当の使命であると思います。もちろん、れもんさん、とっきー、ゆきじの4人と一緒に私たちがだからこそできる感謝報謝を考え、18回のおのみんなと実行していきます。そして、また子ども達と会った時に、一回りも二回りも成長した自分も子ども達の成長に携わりたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(運営支援担当係り) ニックネーム「れもん」 名前「田中 伶奈」

第18回おのみち100km徒歩の旅の中止を受けて、当たり前前の有り難さを
感じました。4泊5日の100kmの旅ができていたことはもちろんですが、対面
研修ができていたこと、大学の授業を教室で受けることができていたこと、
気軽に友達とショッピングしたり、旅行に行っていたことは、当たり前前
でなかったのだと新型コロナウイルスにより気づかされました。

しかし、できないことばかりを考えるのではなく、今年だからこそ、今年か
らこそできることを考えることの大切さを改めて学びました。

今年は、100km徒歩の旅ではなく、「感恩報謝の旅」を行っています。私の
担当の係りは今まで18年間、おの100を支えて下さっていた方々への感謝の
気持ちを形にする形でした。過去の資料などを参考にリストアップを
行いましたが、本当にたくさんの方々を支えられて成り立っている事業であ
ることを実感しました。4泊5日間、子どもたちと歩き抜く中でもたくさん
の支えを感じていましたが、今回の「感恩報謝の旅」により、新たな観えな
いを観える形にできたことは、今年だからこそできたことで、私自身、
知ることができて良かったと思っています。

第18回おのみち100km徒歩の旅は開催することができず、実際に歩
いたことのある学生リーダーが少なくなってしまうことは今後の懸念
事項であるかもしれませんが、たくさんの方々に支えられていることを知る
ことができたことは、これからの強みとなるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの影響音のみならず、どんどんと変化していく
社会において、現状を受け止め、今の自分にできることを一生懸命
命に頑張ることの大切さ、誤った情報に囚われるのではなく、
自分から正しい情報を見極めることの重要さを知りました。

また、会うことが難しかったからこそ、近くにいる人の存在を大切
にし、一つひとつの出会いであったり、時間を大切にできる人でありたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(運営支援

係り)

ニックネーム「ゆきじ

」

名前「川地 由桜

」

今年のおの100がないことを知った時は、すごい空虚感に襲われました。「あ、今年って何を目指して頑張ったらいんだろう。」何と言って新人生を勧誘したら良いんだろう。」という考えがずっと頭の中で回っていました。その時の私は、あまりにも本番のことに気が向いていました。おの100は本番だけが全てではない。そのことを昨年関わって分かって、自分だけがなせか見失っていました。そこには、「今年も本番があるのは当然」と思っている自分がいたんだと思います。今年の本番が中止となり改めて私は当たり前前にあることの有難さを実感し、それと同時に常に新しいことに挑戦できる環境が近くに常にあるように感じました。今年は今年の形があるのが、おの100であり、それは全てのことについて言えることだと私は感じました。今年や今という時を自分がどうしたいかによって、「新しいことに挑戦できる環境」にするか、「昨年と同じことをする環境」にするかは決まるのだなと感じ、私は常に「新しいことに挑戦できる環境」を求めて行動していきこうと決めました。

そのような決めた時私は今年に関われることにワクワクしています。今までのない年ということは新しいことに挑戦できる年でもあるからです。新しいことに挑戦すると初心に戻れて昨年までの学びを更に深めることが出来ます。また、今まで多くの人たちが繋いできたおの100をより続けていくための重要な年に関われることに有難いとも思いました。新しいことからくる学びとともに今年はより観えない力を学びます。それをみんなと共有することで、次の世代に多くのことを学べるおの100を引き継いでいく、そして来年におの100を繋ぐ人になろうと思っていました。今年のおの100を活動していく中で、いままでの多くの支え・観えない力をみんなと共に学び、チームとして歩んでいく一方、自分の力も器もより大きいものにしていきたいと思えます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(運営支援担当係り) ニックネーム「とっきー」 名前「時友 知花」

私は今年の本番は新型コロナウイルスの影響で中止になるかもしれないと少し覚悟はしていたものの、実際に中止だという連絡を受けてどこか信じられない気持ちになりました。協賛者動いている中で伺った企業の方から応援をして頂いて、今年はより頑張らなないと、去年よりもいい夏にしたいと思っっている中での中止発表だったので、たからかもしれません。感念感謝の旅での係りやその職務分掌が発表された時も具体的なゴールが見えず何をしたらいいのかという不安下っぱいでした。しかし、ZOOM研修で何度も出てきた「あるもの探し」をすることで不安に陥ることが少なくなり私が今年何をしたいのかということも考えられるようになりました。そこで私が考えたのが、応援してくださいだった企業の方々に感謝を伝えたいということ。だから私は運営支援担当を志望していました。任命して頂いた時はすごく嬉しかったです。後悔をしないように活動をすることを決めました。実際に係りで作業をしていると、100を大きく超える関係団体、協賛企業、個人の方々に17年間支えていたただいたことが分かり、これまでおの100が続いているのは多方面からの様々な支えがあったからなんだと感じました。今年新型コロナウイルスの影響を受けていなければ、具体的にどんな方々がどんな支えをして下さったのか知りませんでした。感謝を伝えるための作業をしたことで、おの100の魅力も以前より見つけ出すことができていると思います。19回以降もおの100が続いていくためには、今まで応援して下さった方々はもちろんこれから応援して下さる方々にこれからも応援して頂けるよう魅力的なおの100であり続けることが大事だと思います。魅力的なおの100であり続けるには、おの100の魅力を学生一人一人が知ることが鍵だと思っております。おの100を知らない人にも魅力を伝えられる人になりたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

（活カ向上担当係り） ニックネーム「こーち」 「名前」桔梗晃一

僕たちが当たり前と思ってしまうことは当たり前ではないと
身をもって体験することが多かったように思います。外出自粛や授業のオンラ
イン化、そして本番の中止があり、あることが当たり前となってしまう。これだけ
僕たちにとって大きな学びを体験したのではないかなと思います。これだけ
学びとしても受け止めようとしても、心のどこかで悔しさ、さみしさ、苦しさのような
ものがあった。それが強くなれば僕の目的を感あせます。そんな時にこの
状況で失ったもの、なくなっただものたちが伝えられるメッセージは、「当たり前
前の有り難さ」なのだろうか。その続きがあると僕は考えました。それは「今
の大切さ」です。今、あるものをいかに守っているのか、形は変わってしまうか
しれないけれどつなぐという意志を強く持つことであたりと総じて今を強
く生きるということを学びました。今が明るくなるような輝く未来も大きな
夢もとても大切です。過去からの教訓もいつまでも浸っていた栄光も自分の力
になります。しかし、それで今をなにかしろにしています。はいけません。僕たち
は今何を想い、何を行動するかが大切だと思います。今回の旅で僕たち
は今一度つなぐられてきたタスキを確認し、支えられているということ
を体感することで、僕たちは何を大切にしているか、どう行動するかが見え
てきました。それは先の見にくい状況が教えてくれたことで、一度立ち止まって、今
あるものを探してみなさい！とそこから見えるものもあるでしょうと言われた
ように感じます。僕がそこから見たものは、大学生ともなると自分の人生に
効率がいいとか、合理的であるとか、利益があるという基準を持って選択
をすることがあると思います。それは人生の教訓として大切なことですが、
この体験で今を大切にすることを、つなぐりを大切にすること、支えるも
つなぐものには感謝すること、心を豊かにすることなどなと思います。その心の
豊かさは目には観えないけれど、その人を成長させ、またまありにもい
い影響を与えているとかができる社会に出ても大切なことなると学びました。

『第188回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて〜
「活カ向上提議係り」 ニックネーム「オドー」 「名箭」小堂拓海

今年の夏、また子ども達と出会うため。これは僕がおの
100を今年も続けようと思った理由の一つでもあります。今年
は僕が班付サーリーダーを経験させて頂いた時の大好きな
ハムの仲間と再会できる最後の夏の本番でした。実際、
去年の夏、一年越しに再会した中ボウ研として戻ってきたこ
くれた彼の大きな背中を眺めたり、照れ臭そうに目をキラ
キラさせていた彼の300キロ完歩した姿をみたり、ポスター
牙年も絶対行く！待ってこれないと、帰り際、僕の所にわざ
わざと伝えに来てくれた事は、僕の人生の中でも嬉しい事だ
でした。そんな彼らや、新しい子ども達と出会える事は、とこ
も榮しみにしていただいたので、今年の夏の本番中止の運路を受
けた時は、正直ショックでした。もちろん、良かった事もあり
ます。それは、未来の人生を切り開くという面が、自分を
見つめ直す良ききっかけになったことです。本当に自分が
必要としているモノ、大切にしているコト。落ちついて考える
時間があつたから、それによって来たように感じています。何か
に固執していたり、あの人がいなければ、あの物がなければダメ。
という考え方に知らず知らずなつていたと気付きました。日々、変化
についていき、自分のバヤ生活も変化していかなければいけない
んだ、という考え方になりました。本番中止により、おの100
でも日常でも色々なことが変化してきますが、そんな中で、目の
前のことに頑張れる人も、頑張れていないと悲観している人も
生きることさえいければ良いな、と今は思っています。僕も周り
にいてる人に感謝をしながら、自分なら絶対大丈夫。という
気持ちで生きていきます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

「活カ向と 係り」 ニックネーム「セセ」 「名箭」瀬々 龍」

本番中止を聞いた時、とにかくショックだったことを、おぼえている。あの100に入った一番の目的が本番を経験すること、また一年目の経験をいかせるようなものを二年目の本番でやりたいと思っていた。自分も来年、四年生になるためもう一年続けることに意味があるのかとおの100に参加することへの疑念も生まれました。しかしこの事態心に対してあの100は、逆に今なにかできるか、コロナがあったから成長できた部分もあったな、ないもの、このことはかり考えたい自分とは違う考え方をもっていた。新しい価値観との出会い、あの100で学べることは、理由をコロナのせいにしたくない、今できることから来年につなげようと思った。活動していく中でも人と対面できなくなったり、他の班の人との会話をする機会がなくなったり、今まで当たり前だったものが当たり前前ではなくなることがこの期間にたくさん存在する。感謝するものを探す活動の時に感じたが当たり前前にあるものほどそのことについて深く考えたりしないものだと思っただこの期間で当たり前前じゃなくなつたものなど整理し直し、いろんなものに感謝の念心をもてるようにしようと思おう。これから先、今回のような予想だにしない事があると思おう。今あるものから何かできるかを見つけて、というあの100で学んだこと、活動してきた経験から、前向きに行動していきたい

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(活方向上担当係り) ニックネーム「たくみ」 名前「則田 拓海」

私は今年の夏本番中止を受けて、じゃあ今年は何が
できるかなと一番に思い浮かびました。夏本番があった
場合、私の今年の目標は、班付きの係りリーダーになって
たくさんの人へ恩送りをする事でした。なぜこの目標が
今年の目標になったかと言うと、昨年、あるエピソードが
あったからです。そのエピソードは、昨年の夏本番に私は、
セーフティネットという係りをしたときに一人の少年
と出会いました。その少年に少しだけ関わって100km
徒歩の旅をゴールした後に僕の所へ少年がきて、「来年は
たくみの班で完歩したいなあ」とTシャツに書かれたことが
この目標の始まりでした。そしてこの目標を今年達成する
ことはできませんでしたが、これに類似したことはできるな
とすぐに思いました。なぜ、そう考えたかと言うと、またまた
エピソードがありました。昨年おの100に参加するとき、ある
先輩との出会いがありました。その先輩に「夏本番がなかったら
おの100はしないのか？」ということを考えていたでいた
からです。そのときに、おの100という場合は夏本番だけをする場
ではないことを気づかせてもらいました。自分が進みたい道がダメに
なっても、他の道を切り拓くことを学ぶ場でもあるなと思っ
ました。だからすぐに目標が見つけられました。

最後に、今、話した数行の中だけでも、おの100では、こんな
にものお会いと気づきがあるんです。その恩心を今年、は、
自分たちから返せたり送れたりできるんです。そんな場
か設けられたことに感謝して、これから謙虚にたおき
おの100に関わっていきこうと思います。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

活カ向上 係り ニックネーム「ゆーちゃん」 名前「藤原優明」

私は今年初参加で本番を経験したことが無いのですが、学んだことはたくさんあったなと感じています。でも正直なところ本番が無いのに対しては悔しい気持ちでいっぱいなの。自分の正直な気持ちです。でも悔しい気持ちがあったから当たり前の有り難さを改めて感じることで来たのではないかと思います。今まで本番を当たり前にできるものだと考えていたから、中止になって悔しい気持ちも生まれました。新しい発見もあったと思います。今回はZOOMを使う機会が多く、ZOOMの有り難さを感じることできました。また今回自分の活動の中でZOOMを使ったレクというのがとても印象に残りました。今年にはコロナウイルスの影響で対面で行うことができない中、ZOOMを使ってレクを行うという考えが自分にとってはいいなと思いました。今後またもしこのような状況になったとしても、下を向くのではなくどのような策があるのかといったような視点で見ることが大切だなと思いました。自分もコロナの影響で学校に行けてないのが悲しく、下を向きがちなので自分の人生の課題としても受け入れようと思いました。色々な制限されて今までできていたことができなくなってしまう、世の中ですが制限されてしまった中でも何かをする意欲は失ってはならないと思います。制限されたとしても未来は作ることでいいと思います。制限されても「自分ならできる」と可能性を持つ人が制限されてしまっている社会でも輝けると思っています。少々の能力でも信じて突き進み、今後何か新しいものを作りたいと思います。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(参加小学生担当係) ニックネーム「にっしー」 名前「西川 峻」

ある程度の子想はできていたし、それなりの心構えはしていたつもりでしたが、実際「本番中止」という決定を聞いたときのショックは大きかったです。「じゃあ今年は何をするの？」「子どもたちと100km歩くために入ってくれた新規の学生の気持ちは？」「今年が最後の4年生の気持ちは？」「何より今年も100kmを楽しみにしてくれていた子どもたちの気持ちは？」・・・様々な想いが巡ってなかなか整理がつかない日々が続きました。私自身も子どもたちと100km歩くところどころに惹かれこの事業に参加し今年も最高の旅を子どもたちに提供できるようにと思っていました。そのハッパは大きいし、ネガティブな気持ちはかりが大きくなっていました。しかし今年最後でショックが一番大きいはずの4年生を筆頭に多くの学生が前を向いて自分たちに行けることを探し行動していました。それを見て、「本番」がでないのは残念なことには変わりはありませんが、自分たちが乗り越えるべき大きな試練として受け入れなければいけないんだと私も考えるようになりました。そして「本番」が中止になったことで、「本番」を開催できるのは当たり前ではなかったということ、1年間開催できてきたというこの重みをあらためて強く感じることできました。今、「感恩報謝の旅」でこれまでお世話になった方々への感謝の気持ちを伝えるとともに、来年盤石の状態で開催できるように様々な準備を行っています。おの100をまたまた続けていくために、これからもたくさんの子ともたち、たくさんの学生に様々な体験をしてもらえようにできることを精一杯やしていきます。まだまだ18回の本番への未練はありますが、嘆いているだけでは何も始まりません。僕たちに行けることは、過去にまいてきた種を今しか咲かすこと、未来に生かす花を咲かせつめるように今しか種をまくことです。二度とない人生だから、二度とないこの瞬間だから後悔のないよう精一杯行動していきます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(参加小学生指導係り) ニックネーム「コタロー」 名前「坂井 昂平」

最初に中止発表を聴いた時、「やっぱりか」という感じでした。もし夏の本番をやっていたらクワッの密着すべてに当てるつもり、自分達がクラスターに付る可能性が非常に高いなと思っていただけです。だけど、それでも例年通りあるものだと信じていたので中止をすぐには受け入れることができずについて、おの／＼に対してはもきちちゃんと向き合うことができませんでした。

そんな時、もう一度頑張ろうと思えるきっかけに付った出来事があった、それはゆーちゃんの推薦者になったことです。推薦者に付ったからには被推薦者の見本になるように行動をしろといけません。ゆーちゃんに比べて成長して欲しいという思いや、ゆーちゃんがおの／＼の研修を通して成長してくれているのを見ると、自分ももっと頑張ろうと思えました。そして参加小学生担当サントリーに任命して頂いたこと、も今のメンバーに大きく繋がっています。初参加のメンバーの意見をガシガシ出し合う姿を見たり、リーダーがスタッフ会議で発表している姿や係メンバーを上手くまとめている姿を見ると、自分も負けていられたいなと思います。

このままコロナが落ち着いてくれば、来年度は夏の本番は通常通り行われると思います。だからそれに向けてまずは自分の体調管理を怠らないこと。そして来年度の応募者数が百人を超えてくれるように、係メンバーと一緒によいツイートを創りたいなと思います。九月からは学生スタッフの募集も始まるので、大玉を受け皿を作れるよう率先して進めていけたらいいなと思います。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

〔参加小学生係り〕 ニックネーム「タツキー」 名前「掛川泰輝」

僕は今回、第18回の本番中止を聞いた時に、正直このままあの100を続ける意味があるのかなとすごく悩みました。ちょうど広島で一人暮らしを始めることも決まり、金銭的な不安が出てきたり、毎週尾道へ行くことの大変さなども考えました。それでも研修で学べることや18回の仲間と感恩報謝の旅をしていくことが決まり、不安もあるけれどこれまでできなかったことができることへの期待があったから続けてみよう!!と思いました。夏の本番がないということは、様々な面で大きな試練として受け入れていかないといけないことで、担当している参加小学生のみんなはどうやって魅力を伝えていく?この空いてしまう一年間、とても重たいよね。こんな話になった時にやはり感じてしまいます。そこで気付くことのできた、今まで毎年、当たり前のように開催できていた有り難さも夏の本番を経験できていない僕もすごく感じました。これまで17回まで較系がれてきたタスキの重みもすごく感じたし、しっかりと較系いぐくださった先輩方への尊敬と感謝の気持ちもすごくできました。それでいうと、夏の本番三年生の今も経験できていない僕は珍しいタイプでもあるし、それを経験できていく17回までのみなさんにはうらやましいなという思いも実は少し持っています。そんなこれからのあの100を継続していく為にも、今回18回で経験した全てのこと、そしてたくさんの方々の経験も色々な方向で活かしていけたら良いのかなと思います。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(参加小学生担当係り) ニックネーム「ほうせい」 名前「小園邦生」

今回、本番中止を受け、まず僕は莫大な喪失感を得た。中止という発表を聞く前に決して予想していませんでした。実際に中止になると確定した時は、言葉が言えも浮かびもしなかった。どうするべきなのか分からなかった。100km歩けるということ。小学生のみんなに会えること。様々なことと当たり前と思いい、そのことに甘えこしまったのかもしれない。日常で、当たり前のことに感謝する。と言うことは、とても意識していた。小さくとも、色んな場面、その場にいてくださる方々には本当に感謝をしています。しかしながら、僕は、自分がいる環境にはあまり意識を持っていませんでした。のかも知れない。大げさに言えば、僕の周りの環境は、自分の力で変えられる。自分の選択が今の状況を作っている。このようにして僕だけが今を作り上げていると勘違いし、色々な周りの支えを全く無視していた気がする。

しかし、今回いつも当たり前の前のようにある徒歩の旅が開催できなかったことにより、自分の取り巻く環境にも感謝すべきものなのだと強く感じた。そう考えると、こうやって当たり前の有り難さを教えるべく、今、現在の状況にも感謝すべきではないかと僕は思う。一見、僕たちにとって、つらいことはたくさんあるかもしれないが、そこから何かを学び、僕らを常に成長させてくれる一種の課題のように考えることで、全このことを前向きに考え、感謝する事が出来るのではないかと深く感じた。そういう意味で、矢程述べたこと、僕の周りの環境は、自分の力で変えられるか通用するのかわからないかと思う。環境そのものを変えることが出来ずとも、それに対する考え方は無限大である。私たち人間の制限のない可能性を示している。一瞬一瞬を大切に、未来の糧にする。全ここにありかとう。

『第18回おのみち100km徒歩の旅〜本番中止を受けて〜』

(参加小学生 係り) ニックネーム「まな」 名前「奥野 愛絵」

私は、新型コロナウイルスの感染が拡大している中、初めておの100の活動に参加しました。おの100がどんな活動をするのか完全には分からない状況で、本番がおの100にとってどんな存在であるかもハッキリと理解できていなかったため、本番中止の発表を聞いた際、「この状況下だしそうだろうな」という思いが一番に浮びました。その後、リーダーの方々や社会人さんなどのおの100の皆さんからお話を聞き、本番がおの100にとってとても大きな存在で、成長や感動を感じられるのだと知ったため、本番があっても良かったという思いが強くなりました。

また、リーダー養成の研修で、今あるすべてのものに感謝するということを学んだように、毎年本番が開催されていたことに感謝させていただきました。おの100の歴史やおの100を支援してくださっている存在を知りました。特に社会人さんへのインクビューゲームで、ご自身の本番の体験談を聞くことができたため、これまでに創造されてきた感動の具体的なことも知ることができ、これラの感動があるから今があるのだと感心されました。もちろん、これだけではなく、たくさん観えないわがあって今があるのだと思います。

第18回、本番は中止になりましたが、私は学生リーダーとして「参加小学生担当」という係りの任命を受けました。私には、これまで繫がれてきたタスキを次に繫げるといふ使命があるということだと思います。そのために、参加小学生係りの比呂さんと共に、データを分析・まとめ、案を出し合ったり話し合ったりしてより効果的なおの100の魅力発信を行い、一年空いしませんでした。思いえない程、次年度参加者を集めようと思います。そうして、おの100に関わる全ての方に「第18回があつて良かった。」と思つてもらいたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

（ホラ研担当係り） ニックネーム「じろー」 「名前」石田修次郎」

人間力育成塾に入って一年目は悔しさと楽しんで半分半分だった。今年の世界が大きく変わった年だ。新型コロナウィルスが大流行して当たり前前前前が当たり前ではなくなった。まさか、日常生活が奪われるなんて、まさか本番が中止になるなんて思いもしなかった。本番で子ども達と歩きたかった。子ども達と歩いて一緒に成長したかった。もし、世界中で大流行していなかったら、「たらればを言っても仕方がないことだが、この悔しい気持ちをどこに向ければいいのか。そんな風に思う時期があったし、今でも思うこともある。しかし、KAKIさんをはじめ、社会人の方々も、感謝の旅を企画してくださったので特別な18kmにしよう、と気持ちを切り換えることができた。歩けないからこそ、

あの100の歴史に残るのだと思うと頑張ろうと思えた。私はホラ研担当としてこの旅を進んでいるのだが、その中で「観えない力」に気づくことのできる機会がたくさんあった。ホラ研がいるから本番が成功している部分もあるのだなと回った。「観えない力」と直に触れることができて感謝の気持ちで一杯になった。

「歴代ホラ研の方々、本当にありがとうございます。」
「〇から1を作る作業は難しいものだが、チームで協力して完成を目指すことは充実していて楽しいものだ。この文集を書いている時点ではまだ私たちの旅は終わっていないが、まっとう素晴らしいものができていると信じて頑張りたい。今のような状態になったからこそ以前のような当たり前に感謝することができている。今、あの100で活動できていることに感謝して、来年こそは子ども達と一緒に100kmを歩くことができようように謙虚に、積極的に頑張っていきます。」

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(ボウ研 係り) ニックネーム「どっちゃん」 【名前】岡崎 綾乃】

私はこの年の一月のプレリーダー養成からおの100を始めた。おの100を始めたのは、自分を変えたかったから、そして何より説明会で見た第17回の映像がとても楽しそうだったからです。なので本番中止を受けられた時はとてもショックでした。

もちろん仕方のないことではあるのですが、それでもプレリーダー養成の約2、3ヶ月間がなんだかとても問抜けに思えました。みんな同じようにやるせない思ってたと思います。

しかし中止を受けてからの行動(リレーメールとか)から勇気と元氣をもらい、今こうして感恩報酬の旅という活動をしていきます。また、冬に向った協賛先の方々に何か返したいという思いもありました。一万円という想いを形で受け取ってしまいましたので、せめて何かしないといけないと思ったのも、リーダー養成に参加した理由の一つです。

本番中止で得たものも沢山あります。例えば、当り前の有り難さについて学べたことです。私は、17回欠かさず行われてきたのなら今年も開催される」と当たり前前に思っていました。しかしその当たり前を当たり前前にするには、まっとうな色々な努力があったのだと実感しました。

また、これまでつなかれてきたタスクの大きさを実感できたのも良かったことの一つです。そもそもこれまで人員不足、金銭の不足など、開催困難になったことは何度もあったはず。その度により乗ってきた社会人スタッフ、学生スタッフに感謝します。

あかげさまで今年でしかできないことを決まらせてもらっています。来年はより大きく輝きたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(魅力発信室) ボラ研担当 係り) ニックネーム「あすみ」 名前「延岡明日美」

第18回おのみち100km徒歩の旅の本番中止を聞いた時、直ぐには理解が出来ず言葉を失いました。心にホッカリと穴が空いたという言葉をこれ程実感したのは初めてです。しばらくは小学校からの思い出の写真やTシャツ、活動報告書等を眺めてはため息をつくばかりでした。ですが、いつまでもそうしている訳にはいきません。これは今の自分達が成長するための大きな試練として、乗り越えられる壁として現れた物だと考えるようにしました。今回の事で、おの100は当たり前前にあるものではないということを感じる事ができ、ここまで繋いできてくださった先輩方から心からの感謝を伝えたいと思いました。18回までの間の教え切れないドラマや様々な試練を乗り越えて繋がれてきたタスキの重みを十分に理解できる年になったと思います。今年出来なかったことも多いかも知れませんが、今の私たちにしか出来ないことも多いです。これから先、何年も何十年もおの100を続けて行くために、今までを振り返り、19回へ向けた準備を「ハラ」を生きる私たちに出来る精一杯の行動をしていきたいと思っています。私の係であるボラ研担当は、ボランティア研修生という未来への希望が沢山詰まっている中学生を対象に魅力発信を行っています。悔しい想いや楽しい思い出、心動く瞬間など沢山の学びを得ることが出来るボラ研を、人でも多くの中学生に体験してほしいです。また心を動かされたボラ研が高校生・大学生として、これから先のおの100を担っていくと思います。今日の事だけでなく、このおの100での学びや経験は自分の財産だと思っています。これから先の人生を彩り、切り拓いていくには、財産をしまひ込んでしまふのは勿体ないです。積極的な行動で自らチャンスを探し、学びの機会を得ていきたいと思っています。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

（健康管理 係り） ニックネーム「そるぽん」 「名前」北原 志織 「

今年の本番が中止になるといふ発表を聴いて、私は子ども達に会えないといふことが一番悔しかったです。来年もまた来るねと言ってくれた子ども達が思い出されて、それでも本番が開催できないのはどうしようもない事であり、それを受け入れるのには時間が掛かりました。全このことは当たり前でないと言えども、本番が毎年開催されるのは当たり前前のことではないのだといふことを、中止になってはじめて実感しました。できない事が多い中で、私にできるのは目の前のことに丁寧に取り組む事だと考えて動くことで、前に向けた気がします。また、本番の中止により、0日や0日の方々、そしてKAKIさんからお話を伺い、これまで受け継がれてきたタスキの重みを実感するといふ機会を頂きました。そのタスキを今年本番がなくなったといふ理由で途絶えさせてはいけない、次に継ぎたいといふ思いを持ちました。

健康管理担当としておの100の十七年間で積み上げられてきた健康管理を調べて十八期生へ向けて発信する事で十八期生が本番を体験したのと同じくらい知識を身につけてほしいという思いで活動を進めました。健康管理について調べていくうちに、本番を一回経験した身でも気がななかつた、たくさん観えない力の支えを知りました。団員が百km完歩できるその裏側には想像以上の人の力があるといふことを知ることができました。

本番中止によって様々な場面において当たり前前の有難さと観えない力を感じることができたので、このタスキを十九回、そしてその先へと繋ぐために、行動していきます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(健康管理担当係り) ニックネーム「タヤ」 【名前「平田貴輝」】

私はニショウワでした。おのみち100km徒歩の旅は毎年ある恒例行事と考えていたからです。おの100で多くの方と出会い、経験をし、学んでもまだ「当たり前」かと思っていた自分にも驚きました。しかし、この考えに気がつくことができたのも一重にコロナという状況のおかげです。来期々ための自分自身何が出来るか良い機会だと感じました。健康管理担当に任命していただき、多くの観えはいい力々存在に気がつくことができました。まず本番々ための準備々多かったです。目に見える物だけでなく、講習や使用用途ほど自分はおの100はほんの一部しか見えていない、見えていないことを通感しました。この莫大は量々物、情報がおの100を下から支える必要不可欠は要素です。今、感恩、報謝々旅として行っている活動は来期の勢いにはなると感じます。どれだけ具体的にわかるかよくまとめ、共有できるように、自分自身が観えはいい力々一部だと実感できるのには感謝です。もう思うところもワクワクします。19秋以降々学生リーダー、社会人々方々が少くてもワリエイティブは発想を考えた時を作るための金やで取り組めます。おの100に参加して私々人生は大きく変わりました。新しいことをするのには抵抗は感じますが、さらなる高サへのほううとする考えは参加したことで芽生えた考えです。また考えた方がいい、多くの方々とお会いし学びを深めることができました。勇気を出して一歩踏み出して良かったのです。イレギュラーは状況でどれだけ行動できるのか考える重要は年には、たと思ひます。先輩方からうっけいできたワキスキを次々世代へ学年もする予定です。今後を考えた行動をこれからもしていきたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

健康管理

係り

ニックネーム「たくちゃん」

名前「芝殿拓人」

」

今回おの100のメインイベントである100km徒歩の旅が中止になり、参加してまもない頃は本番がなくなって何を目指して行けば良いのだろうかと不安な気持ちにもなりました。しかし、毎週行われるリーダー研修で、本番を何回か経験してきた大先輩や、初参加の人など幅広く、各々が自分の考えを持っている人の集まりであったのでも刺激的な日々でした。研修を通してリーダーとしての在り方などの貴重な学びに多く触れることができたので、いつでも発揮できるように自分のものにしたと思います。

こうして毎週研修を積み重ねていくうちに、本番が中止となった今、自分が何をしたいかということが次第に見えてきました。今までの先輩が、ここまでつくり上げてきてくれたものを、しっかりと次の第に継ぎたいということが自分たちの役目なんだと分かり、本番は中止になったけれど、最高だったなと感じることができるよりの旅にしていきたいです。

感謝の気持ちを示す行動として、しっかりと次の代へ継ぎたいという行動をもって感謝の気持ちを表現していきます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅〜本番中止を受けて〜』

(健康管理 係り) ニックネーム「ムソウ」 名前「宮脇 歩花」

私は本番の中止を聞いた時、非常に残念な気持ちになりました。初めて本番を経験するということもあり、本番を迎える目を何よりの楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルスの感染の恐れがある以上、本番を中止せざるを得ませんでした。私は、自分がこの状況に立たされていることは試練だと感じました。ZOOM研修や係り別ミーティングなど出来ることが限られている中、今日まで十九回以降の同員のために何が出来る、何を残せるのかを考へてきました。私自身、本番は一度も経験できませんでしたが、この数ヶ月間でおの100の魅力を沢山見つけることが出来ました。だから、来年はおの100の魅力を全力で発信していきたいです。また、この状況は、当たり前前に本番を迎えられると思っていた私に、当たり前前の有り難さ・大切さを気づかせてくれました。これは、おの100だけに限らず、日常生活にも当てはまることだと思います。今の私が何不自由なく生活できているのも、周りにある環境や周りにいてくれる人のおかげです。当たり前前が一番の幸せであることを常に忘れず、心に留めておきたいです。そして、十八回まで繋がれてきたタスキを、これから団員の一員である私も繋いでいかなければなりません。今は健康管理担当として、十九回以降の団員のために、そして全員が次の本番を安心して迎えられるように、共有したり収集したりしています。次の本番が開催されるかどうかは分かりませんが、今の活動は決して無駄ではないので、これからもおの100に貢献出来るように努めています。そして、次の本番を経験するときには、聞かれたことは何でも答へられるくらいの頼りがいのある学生リーダーになりたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

健康管理

係り) ニックネーム「まっちゃん」

名前「松尾広大」

私は本番が中止になるというところを知ったうえで、おの100に参加することを決めました。本番の中止を知った時、私はおの100のことについては、何も知らない状態でした。

そのため中止の聴いても、一年あいて、来年は100km歩けるだろう。これか思っています。しかし、研修に参加するうちに、おの100のこれまでの軌跡や、おの100の先輩方が挑戦隊に付けてきた想いを知り、この一年が、おの100にとって、そして、おの100の先輩方にとって非常に大きな一年になるというところを感じました。そしてこの一年をより有意義な年にしたと思います。初参加ながらも、この一年を全力でがむしゃらに駆け抜けて、おの100の決意しました。

また、本番の中止や、対面での研修の中止によって、活動ができなかったことは、当たり前ではなく、有り難いことなんだということを実感しました。当たり前のように活動できていると、ついその有り難さを忘れてしまいがちですが、このような状況だからこそ、有り難さを強く感じることができました。一年目から、当たり前

の有り難さを感じているような状況におかれているということではないか、この自分のおの100に対する姿勢に、プラスに働くのではないかと思っています。200Mでの研修ができたことや、感謝の気持ちができて、当たり前のこと、当たり前で、嫌々な

観えない力によって支えられています。これまで十七年間支えてきた、観えない力への感謝を示すために、この一年は空白の一年ではなく、未来へタスクをつなぐ一年にしたいと思っています。18thがあったから、今のおの100がある。と、将来言われるようにしたいと思いました。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(安全管理担当係り) ニックネーム「マッシュ」 名前「馬場 和輝」

私は本番中止を、受けて学ぶことができたことが大きく二つあります。一つは、本番が中止になったことで例年行われてきた一つの行事とその行事を行うためになされてきた事が、今年行おうことができません。当たり前前に思っていたことが急に出来ない状況にさらされると、「当たり前が有り難い」としみじみと感じます。正直な所、中止発表を受けた当所は、また夏に子どもたちと再会し、違った成長の姿を見たい！もっとたくさん子どもと関わったり、人と関わっていく中で自分もおの100の一員として成長したいと思っていたことが叶わないのかとくやしかったです。しかし、今回改めて、コロナウイルスの感染拡大で当たり前前であったことが有り難いことであることを学ばせてくれてうれしいです。

そして、もう一つの学んだことは第十八回までつながれてきたタスキの責任を感じて、「おの100」というこの活動をこれからもつなげていかなければいけないということです。今年度の研修では、おの100の真髄を知ろうという活動で代表的に社会人の方へインフォビュアゲームを行う活動で、第十八回までタスキが繋がって来た理由やこれからもつなげていかなければいけない責任が交互に混ざってくる一方で、変わることも多い事務局の想い、協賛企業、地域の方々からの信頼など、本番が中止になったことで初めて観えない力の支えに気づくことができ、様々な有形無形にかかわらず感謝の気持ちを持つことができました。

最後に、今年はコロナでできないことがたくさんあったけれどコロナがあったことで普段は観えていなかったものへの感謝の念に気が付かれ、第十八回のこのタスキを第十九回、二十回へとつないでいける働きかけ、風送りを行っています。このような学びのある機会を提供してくださるKAKIEMをほいめとして、運営スタッフ、社会人さん、第十八回のみなさん、多くの方に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

〔安全管理係り〕 ニックネーム「ミショート」 「名前」サ将 暁珂

今年にはコロナウイルスの影響で本番がなくなってしまうりましたが、去年の冬からおの100kmを参加してからずっと本番をたのしみしていましたので、中止発表を聞いた際はモチベーションはさすがく下がりました。しかし、どんな状況でも頑張っていくのは成長なので、今まで安全管理のセーフティーズと一緒にやってきました。

安全管理係りに入って、本番のイメージをどんどんつきました。いろいろなイレギュラーがあったなのに、18年間もやっていきました。おの100kmに入って本当によかったです。

最初は自分の成長のためおの100kmに入ったのですが、今は責任感を持って、「やることはやる、やりたくないこともやらない」という感じ。これも成長だと思いました。

これから、責任感も持って、おの100kmのメンバーと一緒に乗り越えましょう。第19回おのみち100km徒歩の旅できれば私も参加したいです。本番を通して自分自身も成長していきたいです。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(安全と管理担当係り) ニックネーム「トロー」 【名前】ニ(宅) 【

本番中止を聞いた時にはおの100を続けるか辞めるのかを悩みました。自分の目標を達成するためには、小学生と関わる必要があったため、目標を失ってしまったからです。初参加の昨年は自分の力不足により、その目標を達成できず今年こそはと意気込んでいたとギに中止を言い渡され、目標がないまま続けても自分の性格上成長はないだろうと考え継続するかを悩みました。しかし、同じ大学の仲間が自分のために時間を割いて説得をしてくれました。そのおかげで自分は継続する決心が付き、目的を新たに立て、その目標を達成するために頑張ろうと思いました。加えて、自分の中での仲間の存在がどれほど大きいものかを改めて実感心なせていたなきました。そして、継続をして対面での研修が難しくこのOMを使用しての研修をしてきました。今までとは違う環境で行うこと、今までは当たり前であったことが当たり前ではなかったのだと感じました。例えば、みんなが話しながら研修会場に行く、一緒に研修を受ける、一緒に帰る、発表時の相植や拍手などをしてもらえることが、これも当然であるかのように感じていました。しかし、このOM研修を経て、拍手や相植が自分達の発表をやりにやすくしてくれていることを改めて気がつきました。おの100の五つの心得の一つの「感謝の念を持つ」を実行できていなかったと気がつかされました。だから、今後は、当たり前などは存在しないと再認識をして、全てのことに感謝の念を持って、行動をしたいと思えます。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

〔安全管理担当 係り〕 ニックネーム「アッキー」 名前「荒木 彰英」

五日間の「感動創造の旅」を通して、子ども達の頑張りを手助けしたり、成長する姿を目の当たりにしたいという思いを動機の一つとして、「おの100」に関わりたいと思っていました。ところが「感動創造の旅」の本番が中止になるという一報を聞き、子ども達と関わる場がなくなってしまうことを、とても残念に感じました。しかし、例年通りの本番は無いにしても、勿趣味という自分の持ち味や得意分野を生かして何か「おの100」に貢献できることがあるのではないかと考え、参加することを決意しました。新型コロナウイルス感染症拡大の悲世の中、大学の講義はオンライン形式となり、様々なイベントが中止となるような環境下で、他大学の学生リーダーと関わる場があるのはとても有り難いことだと考えました。また、人と対面で会えることは、当たり前のように当たり前ではないということを感じ、身の周りにおける一つひとつの「モノ」や「ユト」に感謝する想いをより強く抱くようになりました。「感動創造の旅」の替わりに「感恩報謝の旅」を実践するという話を聞いて、初参加の身としては、何に対して感恩報謝をする必要があるのか理解できていませんでした。しかし、人間力育成塾の研修を受けたりする中で、歴代OB・OGの方々がタスキを繋いできたことや、協賛企業の協力があって、この第18回が存在していることを知り、これまぶ「おの100」に関わってきた、すべての人や物に感恩報謝すべきだと考えるようになりました。また、感動創造の旅の本番は未経験であるのは事実ですが、今回が最初で最後になるかもしれない感恩報謝の旅の中で、最も深く掘り下げて「おの100」について知れたと思います。来年以降はさらに「おの100」を継承する意識を持って行動します。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(テーマソングと集録) ニックネーム「うっわん」【名前】宇津野 未来【

私が本番中止を受けて一番に考えたことは、今の自分に何ができてきたのか、というところだ。去年、当たり前のようにサンボルを受けていた研修も、準備も夏の本番前日間も金も当たり前前日間はなかったように気がつかされました。研修で行ったインスタシューターゲームOB、OGの方とお話して、今、私がおの100と出会えた理由は、このようにたてまつる方のおかげのおかげだ、などと感しました。今までつないできていたただいたラスキを、なくしていく、思いを共に、みんなに楽しんで、最高の場所をもっと先の人にも知ってもらいたい、この年が終わりにしたくないと思いました。そして私は、テーマソング「夢に向かて」のMVを制作するのと、この文集を制作する係になりました。MVでは、感染に気をつけて撮影に行ったり、たてまつる量のデータから、特にこれ、というものを見つけ出して、初めに見た人が夏の本番前日間かどのようなものなのか、夏の本番を経験したことのある人が、このMVを見て思い出すところ、そして多様なものを目指しました。文集では、あくまでみんなの感想文が主役なので、それを引き出さて、それより前の表紙、裏表紙、目次にこだわりました。この係は、元々は2つの係に分れていました。だから、作業量もその分多いし、記録映像とか記録写真を見ている中、もし今年歩けたら、去年見てきたかどうかは何をやるのか、知っているから、もっと余裕を持ってきていたのか、とか色々考えました。ですが、今こそが去年ぶつかりたところも現れた、かた壁なのかと思えます。今までの先輩方も、年々様々な問題があったけれど、それを乗り越えてきたラスキを、つないでこられたのだと思います。どうやって考えたり、この状況だからと、またなだたひたこ、この状況だから、また事をたてまつるわけ、今年を精一杯頑張ろうと思えました。この一年が、ついに先の100をやる人にとって、振り返った時に力を与えられるような年になったらいいなと思います。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

（テーマが又々集係り） ニックネーム「おまかなさん」 名前「井上奨太」

あたり前とは何かの、私が本番中止を受け、常に持ち続けたい疑問である。あの100kmのミとツの「感謝」。これは、何かを手えてもらってありがたうと伝えること。他に水や食事、仲間や親など、あたりまえ過ぎて気づかないものに感謝の念を持ち続けることもあると考える。私が疑問に持つあたりまえとはこのあたりまえである。

コロナ禍により普段の生活を大きく変わり、あたりまえだったものがあたりまえじゃなくなった。普段の生活がどれだけ有り難いか気づき、また気づく人を増えたいと思う。しかし、よく耳にする言葉だが、無くなっただけでは遅いのではないかと。そんな思いからありがたうと伝えられるときは伝えることを心掛けていく。そんなある日、友人から「井上、ありがたうが軽いよね」と言われ、そのミとツに「衝撃を受けた。たしかに、ありがたうと伝えておけばいい、感謝してあげれば何とかなると思う節、少なからずあつたように感じる。衝撃に揺れるミとツは、自粛生活に入り、またあたりまえのように感謝の念を持った。ZOOMでの研修や講義が始まり、慣れない環境で深く考えることはできなかった。しかしミとツの考えに届りついた。

「感謝」。これに関する何かは私の今後の軸になるのではないかと。まだまだ経験不足、知識もない感謝することをやめるつもりはないが、私自身の芯となるものを模索していく。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(テーマソング&文集係り) ニックネーム「ほせ」 名前「長谷川七穂」

新型コロナウイルスが流行し、夏に子どもたちと歩く旅は中止になった。そんなことになるなんて、私がおの100に入るうと決めた昨年末には少しも予想できなかった。当たり前前のようにおの100に入れれば夏に子どもたちや学生スタッフと歩くことができると思っていた。当たり前前なんてないということは、今年おのみち100km徒歩の旅の中止を受けて私が気付いたことだ。おの100の活動が今まで続けてこられたことは当たり前前ではなかったのは、OB・OGの方々からZOOMで話して聞かせて頂いたり、学生スタッフのみんなと考えていたりするうちに気付かされた。もちろん、おの100のことだけではなく日常生活のことから今更、当たり前前に感じていることは当たり前前ではなかったことも知った。人、もの、環境等何かが欠けていたら私が今感じている当たり前前はなかったかもしれないのだ。

私はこれからも、自分く固ソにいる人、自分く固ソの環境、全てくこといありがとうという気持ちを持って生きていきたいと思う。感謝できることが数えきれない程あることに気付き、この様に思っているのはおの100で学ばせてもらったからだ。半年程でも私に沢山のことを気付かせてくれたおの100の環境には感謝している。

だからこそ、これまで較糸いできて下さった方々に感謝し、多くの人に自身を成長させる場所としておの100に関わってほしいと思う。徒歩の旅に代わり、感恩報謝の旅をしてきたが、そのお陰で

このように大切なことに気付くことができた。人生何が起きるか分からない。予想外のことが起きたときや理想、目標とは異なる状況になったときは何が新しいことをしたり、新しいことを知ったりするチャンスかもしれない。前を向いて元気に楽しく一所懸命生きていこう。

私は春から参加した者で、募集の段階で100キロ徒歩の旅は中止と知らされてました。私はおの100に参加するにあたって100キロ徒歩の旅も魅力的でした。おの100以外の人間力育成塾や他大学の人と関われる点が一番魅力的に感じました。また100キロ徒歩の旅がない代わりに違う活動があると聞いて、むしろ今年しか体験できないかもしれないと楽しみだなと思えました。なので私自身あまり100キロ徒歩の旅が中止になって残念だとは思いませんでした。

今は、感恩報謝の旅で今までおの100を支えてくれた方への感謝とこれからもおの100をお願いしませぬの心を胸に活動しています。歴代OB、OGの方々の話を聞く機会があったとき、積極的に多くの方々が協力してくれたり、18thメンバーに感謝の言葉をいただきました。私はなぜ感謝されるのか疑問に思いました。私が、こういったように、歴代OB、OGの方々が感謝の気持ちを持たずに、大切にタスキを繋ぎ下ったから、今おの100の活動が出来てるんだなと思えました。と同時に、自分も未来のおの100にこのタスキを繋ぎなければならぬという使命感を抱きました。感恩報謝の旅でちょっとでも、このタスキ繋ぎに貢献できたらなと思いません。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(テーマソング&文集係り) ニックネーム「まりじん」 名前「安田 まり乃」

新型コロナウイルスの影響によって様々な行事などが中止になり、今までの生活も大きく変わりました。おの100も例外ではなく、私が募集の説明を聞いたときにはもう本番中止が決まっていました。そのときは残念だなあと思う程度でしたが、おの100のこと本番のことを知っていくうちにどれだけ重大なことなのかを感じることもできました。またOB・OGの方々や本番経験者さんへのインタビューを通じて、今まで受け継がれてきたタスキを感じたり、本番をより意識するようになりました。係でMVを作っていく過程でも、昨年の写真や映像などを精査する中で本番へのイメージも膨らみ、本番に少しでもだけ参加したような気分になりました。来年からそれ以降の開催に向けて、本番は経験していかないけど、しっかりタスキを繋いでいけるようにより頑張っていきたいと思っています。今このコロナ下でしか感じられなかった当たり前だと思っている環境のありがたさやこれまで繋がれてきたタスキへ込められた想いなど今だからこそのできたこと、日常を見直す良い機会だったと思います。春から初めてこの一人暮らし、初めての尾道ということで、不安もすごく大きかったです。しかし、おの100に参加して日は浅いですがたくさんの方々に関わる機会を得られ、また色々な立場の方の想いを知ることもできとても充実した日々が送れました。今の第18回までおの100が続いてきたのは、第1回から受け継がれてきた想いのこもったタスキ、そしてそれ以外の強い想いがあったからだと感じました。次回第19回に向けて、今までに聞いた話などをもとにしながらよりリアルアップした旅にしていきたいです。置かれた場所でやるべきことをするのも大切なことですが私はその場所を自分にしか出すことのできない色を出していきたいと思っています。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

【響育・競争担当係り】 ニックネーム「みやっち」 名前「野田 雅」

コロナウイルスの影響で本番の開催中止を受けて、去年私の班だった子どもたちと会えない、300km完歩するんだって言うてくっけいた子が歩くことばできないということも考えると、とても残念で、なんのために続けているのだろうと少し考えました。100km歩けることが普通で、今年も今まで通り開催されて、学生スタッフも支援してくださる方もいて、小学生が普通に集まり、みんなが完歩できることが当たり前のごとで、何事もなく夏の本番ができていと思うていた。しかし、それが当たり前ではなく、今まで17回、中止にならず続けてきたことはとてもすごいことなんだと実感してきました。研修では、OB、OGの方へのインタビューゲームをする機会をいただいた。おの100でどんなことが成長して、おの100で学んだことが今どう生きているのか、当時の体験など、熱意を持って答えて下さった。社会人になってから何年も経つのに、私達の学びのために大事な時間を割いて、一つ一つ丁寧に答えてくださる先輩方がいる。そのおの100を思う気持ちがあつなげて18回までタスキがあつなげてきたのだと感懐、タスキの重さを身に沁み入って実感することができました。また、コロナウイルスの影響で開催が危うい時期に協賛にお伺いしたにも関わらず、私たち学生の成長を応援し、快く協賛に協力してくださり、自分達は応援されていることに改めて気づいた。ここまで17回開催することができたのも、毎年毎年協賛してくださる皆さんのおかげで、協賛金があることが当たり前ではないということも、自分で協賛活動をしてきて実感した。第18回は、感動創造の旅は開催できなかったが、来年こそは歩くんだと意気込んで持っている子どもたちがいる。ここまでタスキをフないできてくださったOB、OGの方々のおの100への愛、応援してくださる方々の協力があって開催できていることを忘れてはいけません。また、今年の感恩、感謝の旅を通して、おの100と向き合えて得た知識で、しっかりと魅力発信し、学生を集め、器をしっかりと作ることから始める。そして第19回へとタスキをつなぎ、自信を持って子どもたちを迎え、夏本番、またみんなが100km完歩する。異例な中でしたが、第18回感恩、感謝の旅を開催することができて本当に良かったです。ありがとうございました。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

〔響育・競育 係り〕 ニックネーム「ラップラップ」 名前「大橋 功資」

本番中止を聴いたとき、私のなかで何かをするための、誰かのために動くための、そうした原動力となる灯火が消えたような気持ちになりました。学生生活最後の100で錦を飾ることなく終わる「やるせない」という言葉では表わせない気分が付日も経きました。学生スタッフ自体を辞退をしようというデータを整理しているときに、自分の初参加の回である15回の解団式での「夢に向かて」の合唱を聴き、そこから数時間データを整理して当時の自分の想い、同期の想い、先輩の想いに触れ、自分のとき「親れなへ、た、感じられなへ、た想い」に触れ、これはこんなところまで立ち止まるとはいけないという灯火が再点火しました。

また、おの100に自分が育てられてきたように、これから先もおの100で育ち、心を豊かにする学生が一人でもいるならば、この場所を未来の学生や子どもたち、そして、そこから生まれる全てのものに、自分が全てを懸けて還さなければいけない、それが私の残された時間でやるべきことだと悟ると同時に、今まで、こうした想いなしは、情念で7年生の先輩方がやっていたのだから、自分を突き動かさねばならないという重みを感じました。

本番とも言える100km 挑戦隊がない研修は、おの100が縁を紡いでいくためには、一休付を伝え、遣していかねばならないのを、何度も考える機会に巡り合い、向きあう内に私のなかで一つの確たるものが生まれました。それは、「自分の本当になりたい自分で挑む」こと、「なりたい自分のなかただれだけ人が描かせるか？」この2つのバランスと大きさが、一人の人間としておの100のなかで人が成長をし、おの100の持つ力を上げる肝になるのだと、月並みかもしれませんが想っております。

最後になりましたが、第18回のゴールは第19日の子どもたち、毎年の100km 挑戦隊と同じように、当り前に参加し、当り前に仲間と共に絆を築き、当り前に来年もおの100で一生懸命になりたいと想うことにあると信じています。そのなかで学生としての私はいませんが、私の遣したものが、これまで繋がれてきたものと同じように息づくことを願いながら筆を置くことにします。

『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(競育担当係り) ニックネーム「ツナ」 名前「平川 千夏」

3月の終わり、本年度の第18回おのみち100km挑戦隊は、中止する事に決定しました。この決定は、残念な気持ちとこれからどう動いて行動していくのかという不安な気持ちになりました。今年初の「感恩報謝の旅」という文字を見ままだと、去年体験できなかった係り子供達を何らかの形で支えてあげたかった、今までお世話になった人の想いを伝えてあげたかったと出来なかったことばかりを考えました。しかし、研修に参加して行く中で、新型ウイルスの影響があったからこそ見えてきたもの、ごまかる範囲で新たな活動として来年に繋ぎたいという不安を学びました。毎年開催されていた活動の過去を感想文集で振り返り、今まで繋ぎがれなかったタスクの重さを感ぜました。100km完歩する中で、子供達、生徒は自分には何が出来るのかを考え、行動しそれぞれの成長や学びに活かしていく事の大事さを文章から教える頂きました。いかに、伝えたい事を言葉にする事が大事だが、新たな目標に挑戦する事の大切さを知りました。そして、おの100で気づけた多方向からの観えない力をこれから的人生に活かしていくために、まず係内で決めたレクソエーション企画を成功させる事が継続へのモチベーションになまと思えました。結局は、自分で考え、自分なりの答えで行動し、例え失敗しなくても思い返せばいい思い出にござるぐらい後悔のないように、出来るだけ頑張る事がこれからの自信になると思いました。競育担当として、どく皆さんを引き込む事が出来るか、共通の楽しみを作るための仕掛けを考えこみます。みやらを筆頭としてラップさん、ワブと今年ならごはの取組みで来年の活動に良い影響を与えられる企画にござるようにしていきたいと思っております。

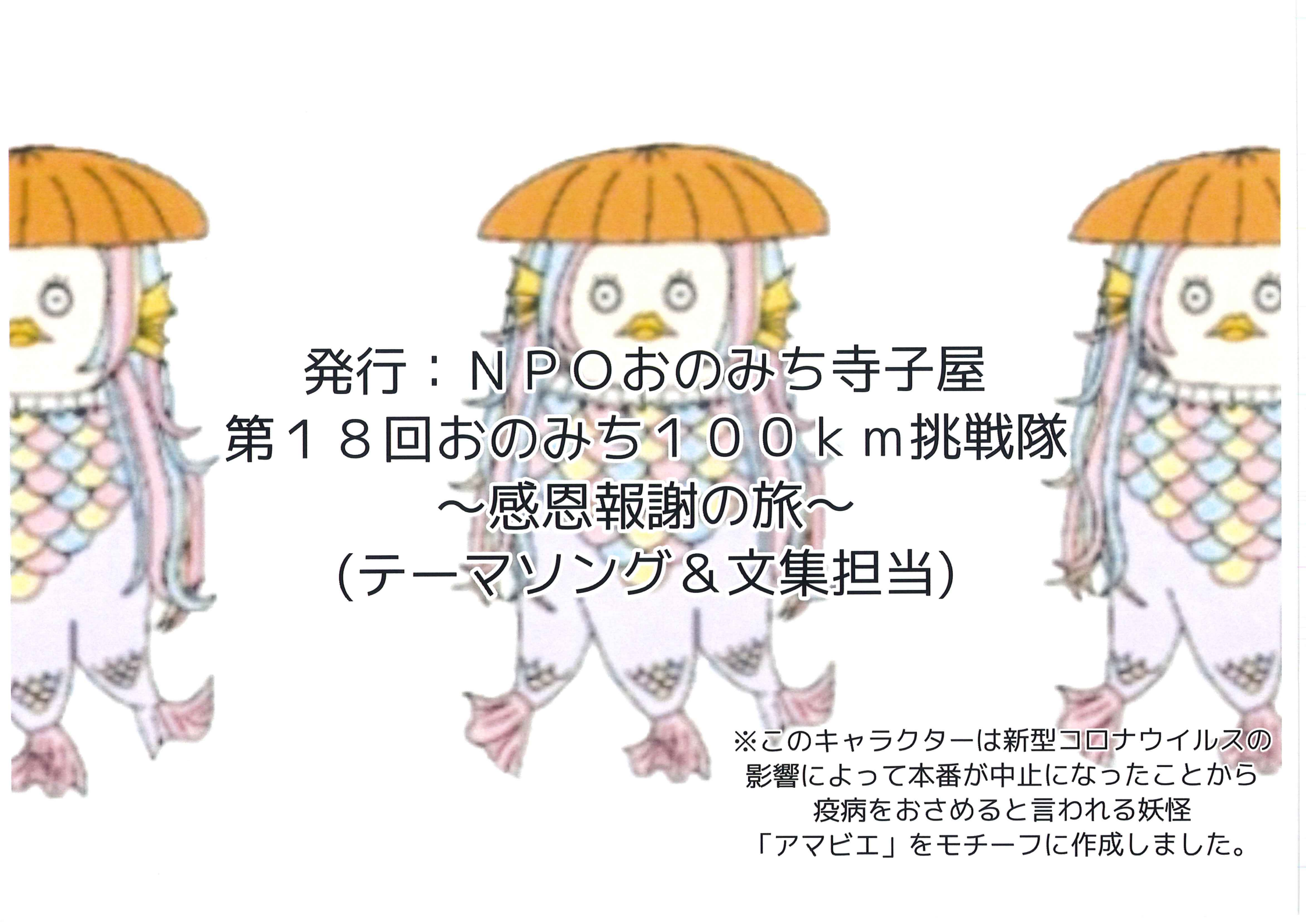
『第18回おのみち100km徒歩の旅』本番中止を受けて』

(響育競育係り) ニックネーム「ロブ」 名前【津田和純平】

三月の研修でKAKエェンからの第18回の夏の本番中止の報告を受けたとき、自分の中の時間が止まったように感じました。どうのち、夏の本番に魅力を感じ、冬からがんばっていたので、自分の中での意欲や目標が一気に消えて、「何のためにこのおの100という場にいるんだろう」と考えてしまっていました。

少し悩んだ末、おの100を続けていくかどうかを決断しました。それからの活動は、例年通りのものが少なく、その時、その時の状況にふりまわされてばかりでした。でも、そのおかげで、色々な可能性を考えておくこと、目先のことだけではなく、先を見通して行動することを学ぶことができました。同時に、全てにおいて「当たり前」はないこと、その有り難さも学びました。

四年生の先輩達を中心に、次につながる事が今年の使命と、まとまって動き出したこともあり、自分の中になくなっていった意欲や目標がまた出てきて、前を向いて進みだすことができました。そして、「次につながる」となったからこそ、研修でのOB・OGの方々へのインタビュゲームなどにも熱が入り、そこから、今までつながれてきたタスキの重み、偉大さを感じるころができました。「このタスキを途絶えさせてはいけません」といから思っていることができて、「ここまで本気でやってくることができました。今回の本番中止やこの状況から生まれた、今年の感恩報謝の旅、来年の本番が、「こんな状況だったけど、そのおかげで最高のものになった、結果的にいいスィッチだった」と笑えるように、まだまだ全力でやっていきたいと思えます。今回のこの状況を乗り越えた僕達だから、これから困難も乗り越えていけるような気がしています。やっやります!!



発行：NPOおのみち寺子屋
第18回おのみち100km挑戦隊
～感恩報謝の旅～
(テーマソング&文集担当)

※このキャラクターは新型コロナウイルスの影響によって本番が中止になったことから疫病をおさめると言われる妖怪「アマビエ」をモチーフに作成しました。